

# いじろのも

第六卷

一月号

## 自分で気付かぬ人

言っではいけないことは

言わないと

言いながら

言っではいけないことを

いっばい

言っている人

自分は間違っていない

人が間違っていると

言いながら

自分で

いっばい

間違いを犯している人

自分は

腹を立てることがないと

言いながら

ちよつと注意されただけで

ひどく

腹を立てている人

議論は

理性的にしなればと

言いながら

相手が

一生忘れられないことを

平然と言っている人

# 人生を考え直して

## みたい人は（十三）

『老子』解説（十二）

今月号は、先月の第四十七章に引き続き、第四十八章を取り上げます。

（第四十八章）学問をなせば、日に日に知識が増します。道をなせば、日に日に知識（への執らわれ）が減って行きます。こうして、執らわれを減らし、また減らして、遂に無為に至るのです。そして、無為の境地に至りますと、なさないということがなくなってくるのです。

この第四十八章は、先月号の第四十七章に引き続いて読んで頂ければ、なお一層よくお分かり頂けると思います。内容的には殆ど同じことを言っていますので。

この偈の面白さは、学問をなせば、知識が増えるのに、道をなせば、知識が減る、と一見矛盾するようなことを言っている点にあると思います。

現代では、いまその反省期にさしかかっているようですが、特に学校教育が発達し、子どもの時から全員に学問をさせています。その内容は殆どが、私の精神モデルで言えば、「あたま」の働きである認知・言語機能に限られています。知的能力の発達と知識の獲得だけが重視されています。その一つの証拠は、義務教育以外の高等学校も大学も大学院も、体育や芸術など「技（わざ）」を伸ばすことが目的である学校以外では、ほとんど学力検査のみが課されていることです。

ですから、現代人は特に、知識を獲得することが大切だと思っけていますので、それを捨てることや、減らすことなどには思いも及びません。獲得したことを忘れないようにしたいと願っています。

しかし、人間は悲しいかな、知識を獲得すればするほど、そして自分が沢山獲得したと思えば思うほど、そのことに執らわれてしまうのです。そして悪いことには、それが執らわれであることにすら気付けないのです。

それは何も知識だけではありません。情動機能の食欲（財産欲）でも性欲（氏族繁栄欲）でも優越欲（名誉欲・権力欲）でも同じことです。あるいは、感覚・運動機能の芸術的能力や運動能力でも同じことです。こうした点でも、得たものが多かつたり、できることが多かつた

りしますと、人に認められずし、自分でも満足しますが、それは、実は、それだけ執らわれを増やしていることになっているのです。しかし、知識と同じことで、それが執らわれを増やしているとは、本人も世間も気付けません。

なぜそれが執らわれなのか、こう言われても皆さんも、にわかには納得できないのではないかと思います。

実は、これを分かって頂くのは、とても難しいことです。例えば、私が入手している十五種余りの、この『老子』について書かれた本のどれをみても、これを正しく解釈している本がないのです。それだけ、この偈が難しいということなのです。

これを分かって頂くための理屈を述べる前に、現実に出くわしている執らわれの例を挙げてみたいと思います。その例は一杯あるのですが、私が日々体験している大学の例で言いますと、例えば自分が、合格するのが難しい大学や学部を出ているとか、沢山仕事をしているとか、人よりよく外国語ができるとか、何かの賞をもらったとか、より高い地位（助手や講師ではなく教授であるといった）についているとか、そう思う人ほどが、知らないうちに傲慢になって、自分では気付けずに大学での現実生活の中で多くの過ちを犯しているのです。

悲しいかなです。

多少理屈っぽくなって恐縮ですが、「人間精神は、自分自身を生かしていこうとする『自己』と、他者を尊重しようとする『他己』との、二つの『己』の弁証法的運動契機から成っている」とする、私のモデルで言いますと、こうした執らわれは、「自己」への執らわれなので、自分自身の生命維持を確実ならしめようとする働きなのです。それは、フロイトという精神分析を創始した人の言葉で言えば「性（生）の本能」と言ってもよいと思います。最近の心理学者はこれを「自己実現の欲求」とか、自己の拡張欲求と言っています。

自己に執らわれようと、他己の働きが相対的に悪くなつてきます。枯れていきます。他己は、基本的には、人を求める心、人を愛する心、人と心を通わそうとする心です。他己の働きが弱まりますと、他人のことを考慮することができなくなつてきます。他者の立場から自分を客観的に見ることが出来なくなつてくるのです。自分を外界（人的、物的）に定位することが出来なくなつてくるのです。それを、アメリカ流の言葉で言えば、外界に「適応」出来なくなつてくるのです。個人として適応していると思えば思うほど、行き着くところ、適応できなくなつてくるというわけです。なんと皮肉なこと

しょうか。

このように、人間が「学をなし」て知識を増やすことは、実は、自己への執らわれを増やしていることになっているのです。釈尊も、人間が苦から救われるためには、執着を捨てることを説かれています。老子も知識への執らわれを捨てなければ、道を体得した「無為」には至れないことを説いておられるのです。

では、偈にあります「道をなす」とはどんなことなのでしょうか。

これが、なかなか正確に理解されていません。それは、「道を体得するための修行」を言っているのです。人間が道を体得する（仏教で言えば、悟りや解脱に達する）には、多かれ少なかれ修行がいるのです。何も修行しないで、道を体得する人はいません。その道を体得するための修行とは、毎回のように言っていますように、具体的には瞑想であり、坐禅であり、ヨーガであり、読経なのです。

そういう、道をなせば（修行をすれば）知識を得ても、あるいは得ていても、それに執らわれることが無くなってくるのです。決して知識を捨てたり、忘れたりするわけではありません。ただ、執らわれなくなっていくのです。道をなせばなすほど、だんだんと執らわれが減って

いくのです。そして、ついには道を体得して、無為に至れるのです。

こうして、修行を積んで無為の境地に至りますと、学問をなして日に日に知識を得ていた人が得たよりもずっと多くの、正確に言えば無限の知識とも言える「智慧」を得て、なさないということが無くなるのです。

学問をなす人が、無限の知識を得ることは、自分が無限に生きない限り不可能です。でも、道を体得すれば、お分かり頂けないかも知れませんが、無限の智慧を得てもう学問しなくても分かるようになるのです。自分が知るために読む必要はなくなるのです。

勿論、いちいちの具体的な出来事や科学的な原理で知らないことはありますが、知らないからとて、不安になったり、不満足を感じたり、悪をなしたりすることがなくなるのです。

そして、具体的な出来事で知らないことがあっても、勝手に生きる喜びがわきだしてきて、弘法大師さんの師匠の恵果和尚さんのように「行住座臥（ぎょうじゅうざ）が（が）法にかなう」ようになるのです。人間は知れば知るほど、間違いを犯しますが、無限の智慧を得ますと、幾ら知っていても、間違いを犯さなくてもよくなっていくのです。

## 自作詩短歌等選

### カウンセリング

一杯の  
コーラにするな  
学校の  
期待を荷なう  
カウンセリング

### 頭でっかち

分かったと  
思っていても  
間違いを  
犯してしまう  
今の人  
頭しっかり  
進んでいるのに

### ソクラテス

ソクラテス  
妻子弟子たち  
泣く中で  
笑みを浮かべて  
毒杯仰ぐ

完全に  
自己の執らわれ  
捨てた人  
後の人たち  
理解が出来ず

執らわれを  
捨てられてない  
哲学者  
紹介しても  
薄ぺらとなり

### ソクラテス

いのちを賭けて  
したことは  
相手の墮落や  
傲慢を  
問答通じ  
指摘して  
気付かせること  
反省さすこと

### 人さまの過失見るな

(法句経五)  
人さまの  
過失を見るな  
したこと  
しなかったことを  
見てはならない

### 自らの

為したることと  
為さざりし  
ことだけ見つめて  
生きていくべし

### 猿回しの猿にする

あたまでは  
人を手段に  
することが  
悪いことだと  
分かるけど  
多くの人は  
気付かず  
ふだんの暮らしで  
人様を  
自分のエゴに  
執らわれて  
猿回しでの  
猿にしている

## こころの伝染

みんなが

嬉しくなり

こころは

悲しい人がいれば

伝染する

みんなが

嬉しい人がいれば

悲しくなる

## 読者とのコミュニケーション

お便り

健康のもと(一)(前回よりの続き)

(3) 枸杞丸で現在九十歳、セックス旺盛

東宮学士の大蔵善行は、元国士進士で、高貴な職を歴任し、子爵であった。この人は、常に鐘乳丸(クコの粉とモチ米を練り合わせて丸剤にする)を毎日一丸ずつ食べた。八十七歳で男の子をませた。現在九十歳であるが、壮年のようで、耳目はよく、歩行軽快、家には多くの婦人をもち、性交を休んだことがない。皇太子に漢書を献上して毎朝御進講中で休日は皆無である。天下、ひろく感銘しない者はない。クコを飲む為に健康であると皆が言っている。

以上、医薬の術法を知らせるために掲載した。

泉重千代氏の長寿原因は黒砂糖タンニンであることは前述した。以上の三名はクコタンニンが原因すると明記されている。現代食事は長寿に反して骨粗鬆症や成人病の原因になる。又発癌食も少くない。

薬のはじまりは植物食にある。ぜいたく食ではない。来月号は最終として、腰痛や膝痛などを補筆します。

俳句

鶏が除夜の鐘より先に鳴き

去年の夢二日に来り初笑顔

(徳島県・小原白峰)

ベル鳴りて陽気が丸めし電気餅

炎ゆ初日海に浮かべてシャッター切る

忙がしと妻の一言除夜の鐘

(徳島県・須藤一樹)

短歌

譲りては 草の盛りが 移り行く

峠路に居て ころろ鎮まる

眼にて聴く 楽の音はこれ 夏草

風筋揺れて 輝きわたる

(東京都・高木由紀子)

# 自作随筆選

## 共感能力の欠如

(平成六年十月二日記す)

あの忌まわしいアウシユピッツで、ドイツ・ナチの迫害を体験し、後に実存分析で有名になった、フランクル(八九歳)が、いま日本に来ていて、先日テレビに出演し、現代の人々の精神状況を話していました。その時、いま多くの人々の他者に対する共感能力が落ちてきていて、とても問題だ。多分、苦しみの体験が無くなったことと、関係があるのではないかと思う、と話していました。聞いていて、それこそ共感をおぼえました。私も、特に、若い学生たちがエゴイステックで傲慢になっていて、私のモデルで言えば、「他己」が育っていないように感じていたのです。なぜそうなったのか、その原因と克服法について少し考えてみたいと思います。

今から四十年ぐらい前までは、家族は大家族であり、皆貧乏で、お金もなく、子どもの頃には誰でもが家の手伝いをさせられ、ひもじい思いをし、ボロをまとっていました。ですから、自分の苦しさを通じて、他人の苦しさも理解できたでしょうし、また、三世代以上の同居が

多かったということもあって、他者との人間的な触れ合いも多かったのだと思うのです。

ところが今は、家族は核家族化・少子化して、父母と子だけ、あるいはそれが更に進み核分裂家族化して、父と子ないし母と子のみの家族も多くなってきました。また、昔なら子どもたちは、ある程度の年齢幅をもって皆がより集まって遊んでいました。ところが、今はせいぜい同級生か兄弟(姉妹)と遊ぶぐらいで、大抵は塾へ言ったり、部屋でゲームをしたり、テレビを見たりして一人で過ごしています。ですから、他者との関わりも昔に比べてはるかに少なくなっていると思うのです。

また、現在は飽食暖衣で、贅沢になってしまい、主婦がしていた家事もほとんど電化製品にとって代わりましたし、職場と住まいが分離しましたので、手伝う家事や仕事もなくなってしまうからです。子どもが我慢するのは、学校の勉強だけだというわけです。

これでは、我慢してすることも人間的触れ合いも少な過ぎます。人間は、人と触れ合い、いやなことを我慢して体験してみないと、それをする人の苦しみも、その人の立場も分かりません。実は、そうした体験を多くしないと、「他己」は育ってこないのです。

私のモデルでは、それを体験するのは、小学時代がい

ちばんよいように思えます。共感能力を高める、つまり他己を育てるには、おとながしていることをできるだけたくさん体験してみることなのです。それも、我慢しながらしてみることなのです。それは、社会のおきてを知ることでもあります。社会というものは、いかなる仕組みで動いていくのか、自分が身を持って体験してみることなのです。

具体的には、家庭ですと、便所掃除を含めて掃除、洗濯、お風呂の管理、戸締り、買物、料理、洗濯物の取り入れと折り畳み、アイロンかけ、など小学校から積極的にさせなければなりません。こうしたことが、勉強ができることより、どんな躰けより、大切なのです。いま、家庭から教育機能が失われつつあります。小さい時からお稽古事に通わせたり、保育所に預けたりして、躰けの代理をして貰おうとしています。悲しいことです。

最後に躰けの時期ですが、もっとも有効な躰けができるのは、一歳から2、3歳までと小学校時代です。2、3歳から小学校入学までは、しっかり自分のしたいことを自然の中で体験させることが大切です。更に、中学校へ行くようになったら、また自分のしたいことをさせてやらなければなりません。大人は手本を示すだけなので、適切な躰けで共感能力を養いましょう。

## 日本画家・千住博氏

十月十五日（土）の「土曜美の朝」は日本画家、千住博氏（三十六歳）への山根基世アナウンサーのインタビューでした。

千住氏の独創的な日本画には驚きましたが、言った言葉も印象に残りました。それは、「時間がなくて焦る。生きていられる長さは決まっているのに、自分の絵は未完成で欠点が見えてくる。時間があればもっとよいものがかけると思うと、焦ってくる。」というものでした。

また、同氏はいまニューヨークに住んで活動しているのですが、なぜ日本ではなくニューヨークなのかという山根アナの問いに「ニューヨークは、よいものはいい、悪いものは悪いと、反応がハッキリしていて、自分がそれに早く対応ができるから。日本だと、いいんじゃないの、と言っていいかげんにしか言わないから。」と答えていました。

これらの言葉から、どこまでも自己を見つめ、自己を実現して行こうとする素晴らしいエネルギーを感じました。ますます精進をして、自己の芸術と自己自身とを完成されるよう、祈りたい気持ちになりました。



## 釈尊のごとば（三二一）

法句経解説

（一一七）人がもしも悪いことをしたならば、それを繰り返すな。悪事を心がけるな。悪がつみ重なるのは苦しみである。

（一一八）人がもしも善いことをしたならば、それを繰り返せ。善いことを心がけよ。善いことがつみ重なるのは楽しみである。

この偈を読んで、分からないような難しい言葉は全くありません。また内容も、決まりきったようなことを言っているように思われるのではないのでしょうか。

でも、ここで言っていることは、とても大切なことです。以前にも書きましたように、仏教の教えを一口で表すものに、七仏通戒偈というのがあります。それは、悪をなさず、善をなし、心を清めよ、それが諸仏の教えである、というものでした。ここで解説する偈は、悪をなさず、善をなせ、という通戒偈の教えをもう少し具体化したものになっています。

まず、悪事を繰り返すなという、（一一七）の偈ですが、この場合、大切なことは、自分が悪をなしているこ

とに気付くことです。

それには、常に自分を客観的に見て、反省してみなければなりません。しかし、多くの人は自分のなしている悪に気付けません。善いことをしている積もりで悪いことをしています。悲しいことです。

また、悪いことをしたと気付いても、多くの人は自分への執らわれがありますから、それを自分の心が痛まないうように合理化します。自分の都合のよいように、自分で理屈づけをして、自分で納得するわけです。

あるいは、一つの悪を犯しますと、たとえそれが過失で悪とは言えないような場合でも、損害賠償をしなければならぬとか、謝らなければならぬとか、世間体が悪いとか、といったことからそのことを隠そうとします。そして、今度はもっと大きい悪を犯してしまうのです。例えば、一度嘘をつきますと、その嘘を守るために、また嘘の上塗りをしなければならなくなってきます。そうなりますと、悪の深みへとますますはまっていくことになるのです。この偈に言いますように、積極的に「悪事を心がける」ことになってしまふのです。

この偈を少しくだいて言いますと、「一つの過失や悪事に気付いたら、それを即座に反省して、その悪を償い、二つ以上の、それをつくるような過失や悪事を重ねる

な」となると思えます。悪事を重ねていきますと、必ずどこかで付けが回ってきます。必ず、苦しみが巡ってきます。

次の(一一八)の偈は、善いことを繰り返し返せ、ということですが、これも、なかなか難しいことです。前の偈と対をなしています。

既に、十善戒については何度か述べたとありますが、復習しておきますと、  
不殺生、 不偷盜、 不邪淫、  
不妄語、 不綺語、 不惡口、 不兩舌、 不慳貪、  
不瞋恚、 不邪見、の十個です。

また、六波羅蜜は次の六項目でした。布施(檀那)、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧。

この持戒のなかに、右の十善戒があることになりま  
す。東南アジアに広まっている小乗仏教では、今も僧侶  
は何百という戒律を守っています(比丘二五〇戒、比丘  
尼三五〇戒)。

六波羅蜜の布施のなかには、例えば、和顔施(わけ  
んせ)というのがあります。布施は、相手から何の見返  
りも期待しないで、行う施しですが、この和顔施は、こ  
ちらに何もなくても出来る施しです。

でも、いつ、誰に、どこで会っても、常に笑顔を欠か  
さないでいることは、なかなか出来にくいことです。

皆さんも、この一つの善いことだけでも、徹底して行  
ってみてはいかがですか。きっと、出来ないことに気付  
かれると思います。そのとき、なぜできないのかを反省  
し、なんとか出来るように精進・努力を重ねていけば、  
それは既に、仏の道(自分の安心立命)に通じる道を歩  
んでいることになっていくのです。

(一一九)まだ悪の報いが熟しないあいだは、悪人  
でも幸運に遇うことがある。しかし悪の報いが熟し  
たときには、悪人はわざわざいに遇う。

(一二〇)まだ善の報いが熟しないあいだは、善人  
でもわざわざいに遇うことがある。しかし善の果報が  
熟したときには、善人は幸福(さいわい)に遇う。

この偈は、いわゆる因果応報の教えを述べるものです。  
(一一九)は悪因悪果、(一二〇)善因善果を教えてください  
ます。

日本には、「情けは人の為ならず」ということわざが  
あります。これは、人に情けを施して善い行いをしてお  
けば、その時すぐにはかえってこなくても、いつか社会  
の中をめぐりめぐって、自分にも善い報いがあるものだ、  
ということを言っています。

英語でも、「善い行いは、決して失われる事がない」とか「善いことをしなさい。それは自分自身のためにすることになる」というのがあります。

いずれも、因果応報を言ったものです。

現代では、人と人の関係が、損得（利害）関係や好き嫌い（好悪）関係に還元されてしまっています。人に「善」を施すことすらが、そうしたものに還元されてしまっているのです。ですから、因果応報といった考え方も、いまでは死語に近くなっているのではないかと思われれます。

経済や政治が、基本的には利害関係で動いていることは周知の通りですが、今や、大学でさえも、自分の損得や好悪が、善悪や真偽に優先されて、多くの人が政治的に動いているのです。ということは、経済や政治で、社会全体が動いてしまっていると言えるのです。

ところで、政治の基本的原理は民主主義にあります。その民主主義では、個人個人のエゴが尊重されます。そうしたエゴの集約されたものが、実は、「善」になってしまうのです。

例えば、アメリカが日本に原子爆弾を落としたのは、戦争を早く集結させるためであった、と書いた記念切手が先日アメリカで発行されそうになりましたが、これは、

アメリカ人のエゴの総意として日本へ原子爆弾が投下されたのであって、それはアメリカ人の「善」として正当化されるものであることを示しています。

アメリカ人の生命も日本人の生命も、生命としては等しいと思うのですが、ここでは、積尊の言われた「不殺生戒」は、人間が力や多数決で決めうる相対的原理となってしまうているのです。力のある者や多くの人が、善いこととすることが、どんなことでも善いことだということになるのです。

右でみましたように、今や、何が真偽で何が善悪であるかを追求していく学問の世界すらが、利害関係や相対的多数決原理の支配に屈しています。まして、一般の間では、自分の損得を無視して他者に対して「善いことを為す」ことなど、多くの人にとって縁遠いことになってしまっているのです。

人々の「人の心を感じるころ」は鈍麻し、積尊や老子やソクラテスやキリストの言われた「善いこと」は無視され、利害や好悪の中心をなす、自己の欲望（食・性・優越）や快・不快が最優先されています。

この偈を、しっかりと何度も読みなおして、善行を積み、あらゆる人が幸せに暮らせる社会を作るよう、精進・努力して行くこうではありませんか。

後記

一、明けましておめでとうございます。早々に年賀状を頂きました方々に、紙面を借りてお礼申し上げます。どなたさまにも、ご無礼をしております。お許し下さい。

二、昨年十二月号後記で書きましたように、新たに暮れに本を出版して頂きました。風間書房から「人間精神学序説 自他統合の哲学的心理学の構築とその応用」という書名で出して頂きました。頁数は二百三十頁余りなのですが、値段が高くて、一万三千三百九十円です。一般書店でも注文すればどこでも入手できませんが、読者の方で読んで見たいとお思いの方がいましたら、奥付の「ひびきのさと」に郵便振替で一万円お振り込み下さい。こちらから直接お送りいたします。

三、内容は、私がこれまで発表してきた論文六編と新たに書いた二章で構成されています。それらは、これまでにこの『こころのとも』でも紹介しました「人間精神の心理学モデル」を中心とする「自己・他己双対理論」の教育（響育）学や精神医学や心理学への応用です。

四、暮れの十二月十七日（土）に徳島県の池田町公民館で実施された「池田幼・小・中合同人権集会」で「障害児・者の差別と人権」と題して講演させて頂きました。多くの方々が熱心に聞いて下さいました。ありがとうございました。

ございました。

五、古本屋さんめぐりのことは以前書きましたが、十二月に、鳴門教育大学に留学している現職の先生方三人と共に、車で瀬戸大橋を渡って、岡山の万歩書店に行きました。かなり沢山の古本を買ってきました。その時、本店の他に、三つの支店が出来たことを知りました。一月のはじめに、その中の二店に行きました。どちらも古本屋さんとしては、これまで見たことのないほど大きい店で、教育学、心理学、哲学、宗教学の本も多く置いてありました。私たちのような学問をする者にとって、とてもありがたいことと思います。

月刊 こころのとも 第六卷 一月号 （通巻 六十一号）	平成七年一月八日 〒772 8502 徳島県鳴門市鳴門町高島 鳴門教育大学 障害児教育講座気付 （ひびきのさと 沙門）中塚 善成 <small>（よ）</small>
本誌希望の方は、郵送料として郵便振替で年間千円を次の口座にお振り込み下さい。加入者名 ひびきのさと 口座番号 01610 8 38660	